

## チームやんじー災害支援プロジェクト 被災地での活動内容

### 第3陣

2011/5/23～6/20

#### 【第3陣主メンバー】 敬称略

山口幸雄	山口由里	松原 圭	倉本賢雄	太田 剛	荒田 純司	宮尾 康央	万屋 誠司
岩井俊雪	宮田 均	来田 健	伊藤英樹	木村一郎	中野 将大	釜石 一男	

【炊き出し総数】 28952食<4.23～5.22も含む。北海道に戻ってる間、引継ぎのメンバーが炊き出しを実施。食材使用>  
(累計) 42592食

#### 【被災地の状況】

仮設住宅の建設がすすんできた。

近くに買いにいける商店がなく、自宅がある人も困っていた。

電気、ガスは復旧したものの水はまだ復旧していない。

炊き出し時は、調理の水は給水車に頼り、洗いは、地元の方の紹介してもらった井戸水を汲んで使用。

水を保管する大きなポリ容器をあちこちで目にするようになった。

ファミリーマート前にボランティア用に仮設トイレを町から設置。

ゴミは、生ごみは、畑に埋めさせてもらっていた。

風呂は、住民の方々が作った風呂や避難所にて沸かしているお風呂なども、出来てきた。

後半やっと、水道蛇口から洗水として使用してもいい水が出た。しかし、塩分が含まれているようだった。

後半、仮設住宅の入居も始まった。

避難所からの移動、また、自宅のある人は、物資配給がストップしたり、電気料金がかさむなど、生活不安を抱える状況で、3月に比べて、いろんな感情を口にする人も増えてきた。

また、ある時期を境に津波当時の様子を私たちに口々に話すことも多くなった。

まだまだ、ご遺体が発見されることも多い。

海風が強い日が多く、満潮時には、地盤沈下の箇所が冠水してるところもある。

学校は、5月初旬に始まり、保育園は、6月中旬に再開した。

放射能問題の報道などあるが、宮城の海岸部では、津波の被害がひどく、そこまで耳に届いてないのが現状である。

#### 【活動の様子】

##### 転換期の炊き出し

ファミリーマート前は、あちこちの地区から炊き出しを食べに来ることが多くなった。

いろんなボランティア団体が、GWを境に撤退したようだ。

また、アジア協会の炊き出しが撤退し、港地区での4か所での炊き出しも請け負う形になった。

1時期、1日1,000食以上、または、7か所の炊き出しを実施している時もあり、必要な人に届いていくように炊き出しの見直しをはかる。

洗い場の排水も、重曹を使ったり、水にやさしい洗剤を使っているものの、匂いがひどくなる。 石灰など撒く。

洗い場の水は、大きなポリタンクを設置した。 井戸や給水車で限られた水を使用。

食数が増えるに伴い、ゴミ問題も出てくる。

炊き出し時には、決まった地域のおじいさんや奥さんが野菜切りやおにぎり作りなど手伝いに来てくださった。

物を買いきくところがないということで、フリーマーケットも実施。

また、買い物ごっこで活気を取り戻してもらおうと住民の方々と共に、青空市場を3回実施しました。

食材は、北海道の中央市場で買い付けをし、4トンの冷蔵車で運搬しました。

魚介類や果物など、すべて100円から200円。大変喜ばれ、大賑わいでした。同時にタヒチアンノニ社提供のジュースも配布しました。

札幌中継局では、まほろばにて、エリクサ水(1箱20L)をボランティアで100箱用意してトラックに積みこむ。

また、簡単に調理できるスープの素なども配布しました。

後半に、チームやんじーは、ファミリーマートの営業再開に伴い、住民の方の土地をお借りし、ベースキャンプを移動しました。

### 【購入した主なもの】



テント 風で飛ばされました



クーラーボックス



青空市の食材は、札幌の中央市場にて



雨、日よけ用テントがやっと購入できました

### 【活動の写真】



ハーフ鍋購入でメニュー増えました



子どもたちと共に



青空市 3回実施しました



自宅前にも配りました